

題字 故前田和二郎名誉教授
発行所 東京都新宿区信濃町 35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会(刀林会)
発行人 北島政樹

新病院棟建設募金の御礼



刀林会理事長
国際医療福祉大学
副理事長 名誉学長

北島 政樹 (45回)

この度は刀林会会員の皆様におかれましては、新病院棟建設事業募金にご賛同いただき誠にありがとうございます。刀林会理事長として一言御礼を申し上げます。塾医学部は2017年、医学部開設100周年を迎え、記念シンポジウム、記念式典、記念祝賀会が厳かに取り行われた事は記憶に新しいところであります。私も記念シンポジウムで京都大学、山中伸弥教授の特別講演の司会を務めさせていただきました。このような輝かしい歴史と伝統をもつ塾医学部は世界をリードする基礎・臨床一体化の医学・医療を推進し、質の高い医療人の育成と患者さん中心の医療環境を築く為に2015年1号館1期棟工事竣工が行われ

ました。建設募金目標額は100億円であり、募金期間は平成25年1月1日より平成30年3月31日と設定されました。医学部の募金割当は30億円であり、当初は三四会を中心に募金が始まりましたが、慶應義塾創立150周年事業の一貫として新棟建設基金募集を既

に実施していた事もあり、募金の目標額到達に苦戦を強いられました。そこで各診療科毎に建設募金を集める機運が高まり、2016年刀林会理事長に就任してから各種新体制に於ける委員会を再構築し、募金委員会委員長を熊井浩一郎君(46回)にお願いいたしました。熊井君のリーダーシップの基、外科学教室と刀林会が一体となり、数回の委員

三橋記念国際交流基金の設定 〜延世大学との国際交流〜

刀林会理事長
国際医療福祉大学
副理事長 名誉学長

北島 政樹 (45回)

光輝ある歴史と伝統の刀林会理事長を拝命してから早や一年が過ぎようとしています。正しく、慶應義塾創立五十年を祝って三田山上のゴシック煉瓦造りの図書館の設計に刻まれた文字を思い出します。1980年の皇居での歌会始に元塾長の佐藤朔先生が召人として招かれ、詠んだ歌、即ち「桜の咲く日の学園の時計台、ラテンの文字のいまもかがやく」であります。十一のラテン文字が記されています。TEMPUS FUGIT「時は過ぎてゆく」の意であり、この時期になると時計台を思い出すと同時に過ぎ行く年の中で自分は何をやったか、常に考えています。そこで刀林会の理事長を仰せつから自分のモチ

トーでもある組織の長に就いた時には常に組織をより良き方向に進化させる必要がとって実行してまいりました。これはアップル社の創立者スティーブ・ジョブズ氏の「Innovation distinguishes between a leader and a follower」という理念であります。組



織のイノベーションを常に考え、刀林会の組織や人員配置を改変してきました。その大きな課題の一つが病院新棟に対する募金委員会であり、熊井浩一郎君(46回)に委員長をお願いし、彼のリーダーシップで立派な実績を挙げる事が出来ました。他の重要課題として将来構想委員会の新設であり、松本純夫副理事長(52回)を委員長として刀林会の中・長期計画を検討していただきました。特に女性

外科医の活躍の支援や若手外科医の留学の援助などであり、刀林会の今後の国際展開の可能性についても議論いたしました。このような背景の中で2017年11月に第70回韓国外科学会がソウル市で開催され、学会創立者 Inje Paik 先生記念講演の招待を受けました。司会が永年の友人である延世大学外科前主任教授、Zou 先生であり、会長招

宴で現主任教授の Youn 先生及び私が医学部長時代に延世大学医学部と提携した際に出席されていた2名の名誉教授を紹介されました。この席で韓国を訪問する前から刀林会の国際構想の一貫として、他大学との連携でありました。延世大学外科元主任教授の故 Zou 先生とは生前、家族ぐるみの交流があり、新幹線に乗り、先生の墓参りをしたことも記憶に新しいところがあります。韓国の名門私立大学であり、「韓国の慶應」と呼ばれている延世大学外科と提携する事が最善と思

いその場で話し合いをいたしました。もちろん延世大学の全員も賛成して下さい、その場で決定いたしました。帰国後、松本、北川両副理事長の同意を得た後に、今後の直接の対応の為に八木洋君(77回)を委員長とした国際委員会を設置いたしました。本年、3月7日より国立がんセンター副院長・片井均君(61回)が横浜で第90回日本胃癌学会を主催され、この際、延世大学 Zou 教授も司会者として参加され、本機会に私と八木君と Zou 先生との話し合が行われました。

若手医師の留学支援や延世大学外科との交流を考え、時に刀林会のみならず、状況では遂行は不可能と模索していた矢先に慶應高校の同級生でもあり、現在、1917年(大正6年)1月創業、100年の誇りと実績をもつ三橋産業社長の三橋洋之君から寄付の相談を受けました。新病院寄付金は目標額を達成したので、私の刀林会の将来展望を説明し、刀林会の寄付に賛同いただきました。しかし、三橋君から「一つだけ条件がある。それは君が自分より一日だけ長生きすること」でありました。彼の心温まる行為に對して未永く心に留めるべく両副理事長、国際委員長とも相談し「三橋記念国際交流基金」と命名する事にしました。彼のこよなく慶應義塾を愛する気持ちを尊重し感謝の念を表したいと思っております。2020年には外科学教室創立100周年を迎えます。刀林会としても外科学教室と共に次の100年に向かって輝かしいこの伝統を次世代の外科医に継承していきたいと願っております。人材育成の重要性を感じております。最後に三橋君の心温まる行為に心より感謝いたします。

新病院棟建設募金に対する 刀林会活動報告とご寄付御礼



刀林会新病院棟建設募金委員会
委員長
委員長

熊井 浩一郎 (46回)

刀林会員各位にはすでにご存じのように平成30年5月7日待望の新病院棟1号館がオープンしました。素晴らしいハードが完成し、いよいよソフト面で慶應医学次の100年に向かっての発展に期待が膨らみます。

は、目標額100億円の内に三四会分担分30億円として平成25年1月1日から平成30年3月31日を募金期間として実施されました。刀林会の募金活動は、平成26年度刀林会総会時に比三四会長に募金推進の特別講演をお願いしました。しかし、新病院棟建設関連募金としては、すでに平成17

年10月から平成22年9月に実施された慶應義塾創立150年記念事業募金において指定寄付「信濃町新病院棟建設資金」(以下、150周年募金)が実施されており、刀林会員は1億36,710,910円の寄付実績(三四会全体では13,3億円)を残されていた事もあり、新棟募金応募の出足は芳しいものではありませんでした。

平成29年3月に本募金委員会から36回生以下の全刀林会員に、光輝ある伝統と歴史を築いてこられた外科学教室の一員として、100年先の慶應医学、慶應外科学の次の100年を見据えての発展のために募金協力をとの趣意にて募金依頼状を送付させていただきました。その際、150周年募金と新棟募金共に応募していただけない役員者(大学・講師以上、関連病院・医長以上および現役法人理事長)には目標額一口50万円、二口ををお願いし、各診療科教授に自筆の依頼

には特別企画「医学部創立100年記念新病院棟建設事業」を催し、北川雄光募金委員長司会のもと、いづれも刀林会員である比企能樹連合三田会会長が慶應義塾創立125年記念新棟(現2号館)建設募金成功事例について、渡辺真純新病院棟建設準備室長が新病院棟の完成像と工事の進捗状況について講演され、会員に募金協力を求められました。

平成28年度は刀林会評議員・役員改選年で、総会を経て北島政樹理事長をはじめ理事、評議員が選任され、本募金委員会も委員長熊井浩一郎ほか新陣容となりました(表2)。平成28年10月18日改選後第1回本委員会にて募金方針の再検討が行われ、本募金委員会は150周年募金と新棟募金は同趣旨であることから合算して評価する方針となりました。平成28年10月5日時点で、三四会目標額30億に対する累計募金額は14,88億で未だ50%に達していない状況でした。

平成29年3月に本募金委員会から36回生以下の全刀林会員に、光輝ある伝統と歴史を築いてこられた外科学教室の一員として、100年先の慶應医学、慶應外科学の次の100年を見据えての発展のために募金協力をとの趣意にて募金依頼状を送付させていただきました。その際、150周年募金と新棟募金共に応募していただけない役員者(大学・講師以上、関連病院・医長以上および現役法人理事長)には目標額一口50万円、二口ををお願いし、各診療科教授に自筆の依頼

文を追記していただきました。一方、経済的に厳しい教室助教諸君には目標額を一律25万円に減額し可能なかぎり全員参加を目指しました。さらに平成29年12月から平成30年2月の間に本募金委員会から最後のお願いと見せていただいた思いでした。結びに募金結果をご報告します(表3)。平成25年1月1日から平成30年3月31日の募金期間における慶應義塾基金募集計の刀林会員の募金結果は

4億08,656,220円に達しました。募金応募率42%は臨床教室中トップであり、平均募金額93,800円のご寄付をいただきました。各診療科別の募金状況もお示ししておりますが脳神経外科は刀林会員である方々の集計です。この新棟募金に150周年募金刀林会合計額1億36,710,910円を加えた新病院棟建設に関わる刀林会員の寄付総額は5億45,367,130円となりました。



三四会評議員会における刀林会表彰

刀林会では吉野肇一前理事長のもと、北川雄光教室新病院棟建設募金委員会(平成28年4月27日委員会規則施行)を立ち上げ、三四会募金事務局および慶應義塾基金室と連携して刀林会として募金活動を開始しました(表1)。平成28年6月11日慶大外科関連病院医長会に引き続き初回募金委員会を開催し、大学・准教授以上、関連病院・医長以上の役職者には目標額一口50万円、二口として募金依頼を行いました。

平成28年度刀林会総会時

表1 第1次募金委員会委員

一般・消化器	北川 雄光 委員長	65回
	磯部 陽	59回
	尾原 秀明	72回
	篠田 昌宏	73回
呼吸器	神山 育男	76回相
	澤藤 誠	67回
心臓血管	伊藤 努	68回
	吉武 明弘	77回
小児	上野 滋	57回
	下島 直樹	76回
脳神経	佐藤 周三	56回
	佐々木 光	69回

表2 第2次募金委員会委員

一般・消化器	熊井浩一郎 委員長	65回
	松本 純夫	52回
	北川 雄光	65回
	篠田 昌宏	73回
呼吸器	浅村 尚生	62回
	高橋 祐介	82回
心臓血管	加勢田 馨	86回相
	志水 秀行	65回
小児	伊藤 努	68回
	森川 康英 副委員長	49回
脳神経	黒田 達夫	61回
	山田 洋平	81回
	河瀬 斌	49回
	佐藤 周三	56回

表3 刀林会新病院棟建設募金結果 平成 25.1.1 ~平成 30.3.31

診療科	全員(人)	入金者(人)	募金額(円)	募金率(%)	平均募金額(円)
一般・消化器外科	687	291	278,030,000	42	955,430
小児外科	50	25	18,360,000	50	734,400
呼吸器外科	71	40	24,413,220	56	610,331
心臓血管外科	94	26	21,580,000	28	830,000
脳神経外科	141	54	66,273,000	38	1,227,278
刀林会全体	1043	436	408,656,220	42	938,432

今回の新棟募金の三四会全体の結果は、目標額30億円に対して26,43億円、達成率88.1%でしたが、塾全体の目標額100億円は達成されており、以上、多くの刀林会員から多大なご寄付を賜り心より御礼申し上げます。

新病院棟 1 号館開院にあたって

「ご支援の御礼と決意」



慶應義塾大学医学部
外科（一般・消化器）教授
慶應義塾大学病院 院長

北川 雄光（65回）

本年5月7日に、医学部開設100年の記念事業である念願の新病院棟1号館開院を迎えることができました。あらためまして、この度の新病院棟開設にご支援を下さった全ての皆様から感謝の意を表したいと存じます。とくに、教室別集計では最高42%の募金率を達成し、総額4億円を超える多大なるご寄付を賜りました刀林会の皆様には、教室主任として、また現大

学病院長として心から厚く御礼を申し上げます。総延べ床面積7.4万平方メートルの広大な新病院棟では、1フロアに4看護単位が設置され、相互の連携を取りながら理想的なチーム医療を行える環境となりました。全ての病床を原則「共用床」とし、大幅に増えた外来ブースも各部門が柔軟に共用して効率的な診療を展開して参ります。新病院棟1号館完成を機に診療科や部門の垣根をなくしたク

ラスター医療のさらなる実践を目指しています。病院の心臓部ともなる手術室は25室となり都内でも有数の規模を誇るだけでなく、ハイブリッド手術室、内視鏡手術室、この4月から大幅に保険適応が拡大されたロボット支援下手術室、移植手術などに適した特別仕様室を完備し、隣接する内視鏡センターや血管造影室とも連携して高度な医療をさらに安全かつ迅速に展開できるようにになりました。現在、手術数の増加、手術関連入院収入増加は言うまでもなく病院経営の軸軸となっており、新しい環境で、私ども外科学教室が存分に力を発揮することが、病院全体の発展に大きく貢献できるものと確信しております。集中治療室、救急エリアも面積、機能ともに拡充し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて災害拠点病院、国際対応病院としての機能を充実させて参ります。

信濃町新病院棟を仰ぎ見て



慶應連合三田会 会長

比企 能樹（37回）

本年2月にはがんゲノム医療中核拠点病院に認定され、全ての手術症例の切除検体をバイオバンクに保存し、簡易な遺伝子パネル検査を行う臨床研究も開始いたしました。これによってがん手術件数は飛躍的に増加するものと期待しています。また、新病院棟1号館完成を機に業務の仕組みそのものを大きく変革し、時代の変化に即応して発展できる柔軟な体制を構築すべくワーキンググループを構成して取り組んでおります。特定機能病院であることはもとより私立大学病院では唯一の臨床研究中核病院、がんゲノム医療中核拠点病院としての機能を新病院棟を舞台に思う存分発揮して、慶應医学の未来を切り拓いて参ります。刀林会会員の皆様におかれましては、なお一掃のご支援、ご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

2018年5月7日、三四会員の篤い思いが凝縮されて、慶應義塾大学医学部病院の新棟が希望に満ちて開院しました。広々とした廊下と壁面の上品な佇まいの中で、全塾を上げてのご支援・ご尽力に深甚感謝を捧げたいと感じました。新病院棟の竣工お披露目で初めて見学した時に各部所を深い感銘をもつて視察しながら、殊に外科と言う機能が各棟に於いて素晴らしく、疑うことなく世界トップの医療が行われるであろうと一外科医としてうれしくなりました。ここに至ったのは皆さんの新しい慶應病院への希望と熱意の凝縮であると確信します。思えば長い時間をかけての募金が集ったものと感慨入です。改めて私のPCを開きますと、新棟建設に関するメールや文書が山の様に累積し、この機にゆっくりと再読致しました。

2005年から塾創立150年において10年をかけ塾としての記念事業募金が始まり、わが医学部の建て替えもそこに加えて頂いたものの、他プロジェクトが数多くあり、病院建設のための多額を1学部だけに割り当てるのがなかなか困難でありました。当時は私も三四会長として、安西祐一郎塾長や執行部へ日参し、しつこいほどの嘆願を行い、ようやく2005年になって募金計画の中に「新病院棟建設資金」という広く塾としての特別枠を作って頂き、医学部関係の皆さまだけでなく全塾員からも、この指定枠を使って医学部のために募金を頂戴することが出来るようになりました。ここへ募金を下さった分は、塾にて確実に大切に預かって頂き新病院棟建設の礎の一つとして、研究棟や3号棟の建築が出来ました。

2013年5月に私は思いがけなく慶應連合三田会の会長に指名されました。医学部だけでなく、広く塾全体に目を配る重責を拝命し強く感じたことは、広く三田や日吉、藤沢など他学部において、信濃町の慶大医学部を如何に心にかけて頂いているかでした。塾は一つであること、そして各学部の連携をもつて初めてその全塾の機能が効果を上げます。今回の募金に関しても、思いがけないほど多くの塾員から声援と援助を賜りました。清家篤塾長が新しく就任され常任理事として財政担当の清水雅彦君および医学部からは戸山芳昭君が加わりますと本格的に新信濃町建築が動き出しました。2013年になると「慶應義塾大学医学部100年記念新病院棟建設事業」がスタートしました。当初は遅々としていた募金も、慶大医学部が誇る気鋭の外科医 北川雄光君と渡辺真純君が、新棟建設のための中核に参入するや、めきめきと募金が伸び、ことに母教

室外科の刀林会各位のご協力は目覚ましいものでした。刀林会理事長が吉野肇一君から北島政樹君に引き継がれ、募金委員長が北川雄光君から熊井浩一郎君へ渡されたバトンリレーは見事で、慶大外科ここにありと胸を張れる募金成果を挙げられたと感銘します。塾150年を迎えた当初には「世界に冠たる医学施設」という灯を掲げ目指して来ましたが、新病院棟建設の最中に来院した方々が建築の様子をしばし立ち止まって見入る姿がありました。そして今、新病院棟において診療を待ちながら、インテリアの美しさに感心し、広い廊下に多くの人々が行き交う姿を拝見し感無量です。これからこの美しい建物の中身を充実させて、ここで働く人々の力を研ぐことが求められます。現在では多くの来院する人々が沢山の意見を寄せて下さると聞いております。医学部各位はぜひともこれらのご意見を一つとして無駄にすることなく、膝を折って真摯に受け止め、「病む人を癒す」という目的を忘れずに励んで頂ければ、真の「世界に冠たる」医療施設になると確信します。刀林会各位のご協力とご支援を全塾同窓会である慶應連合三田会からも心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。



都立小児総合医療センター 院長就任



廣部 誠一 (62回)

2018年4月1日付けで東京都立小児総合医療センターの院長に就任いたしました。就任にあたり、日頃からご支援を受け賜りました刀林会の諸先生方、特に慶応義塾大学小児外科学教授、黒田達夫先生(61回)に厚く御礼申し上げます。慶応小児外科教室からの人材支援が無ければ、私が病院管理に時間をかける余裕はありませんでした。当院は2010年3月に、清瀬小児病院、八王子小児病院、梅ヶ丘病院(精神科)、府中病院小児科が府中の地に移転統合し開



設されました。561床(からだ359床、こころ202床)は日本最大規模の小児病院で、また総合病院の多摩総合医療センターの一つの構造物の中にある特徴があります。新病院開設時の林 勉院長(48回)のリーダーシップの基に理想の小児病院を創設するための準備がなされ、その理念を実現するため微力ながら努力していきたいと思

います。私 は1983年に外科入局後、慶応、東京歯科大学市川病院、国立病院機構栃木医療センターで研修し、勝俣慶三先生(31回)率いる小児外科に所属しました。その後、1988年に清瀬小児病院に赴任しました。清瀬小児病院は1948年に都立小児結核保養所として開設され、1958年に都立清瀬小児病院として改称し、日本で初めて小児病院を名乗りま

した。その清瀬小児病院に赴任し、石田治雄先生(43回)、林 勉先生(48回)、鎌形正一郎先生(52回)、上野滋先生(57回)のご指導のもと、小児外科の研鑽を積みました。また、刀林会員として心臓外科の福田豊紀先生(44回)、鈴木孝明先生(62回)、寺田正次先生(61回相当)とは、先天性気管狭窄など連携が必要な手術では緊密なチーム医療をしていただき感謝しています。清瀬から都立小児総合医療センターへ移転統合して9年目となります。37科と多くの小児を専門とする科があり、救命救急医療、高度専門医療、周産期医療、精神科医療、臨床研究が柱です。救急外来は、北米型ERで、トリアージで緊急度を判定し、受診数は平均100人/日です。重篤な症例は集中治療科がするPICU20床で対応していま

す。先天性気管狭窄症の治療成績は本邦随一で、重症例では搬送チームが出向いて搬送し、北は北海道、南は香港から搬送し手術しました。外科系各科があり、手術数は年間4150件(小児外科954件)と日本のトップレベルの症例数です。小児外科は、2016年に小森広嗣先生(77回)から下島直樹先生(76回)に院長が引き継がれ、富田紘史先生(84回)、加藤源俊先生(86回)、ほか4名の7人のチームで頑張っています。また刀林会員は心臓外科の寺田正次先生(61回相当)、平野暁教先生(88回)が在籍しています。三四会員は小児科、麻酔科、整形外科、泌尿器科、形成外科、皮膚科に在籍しており、まさに刀林会員、三四会員の総合力で成り立っている小児病院です。

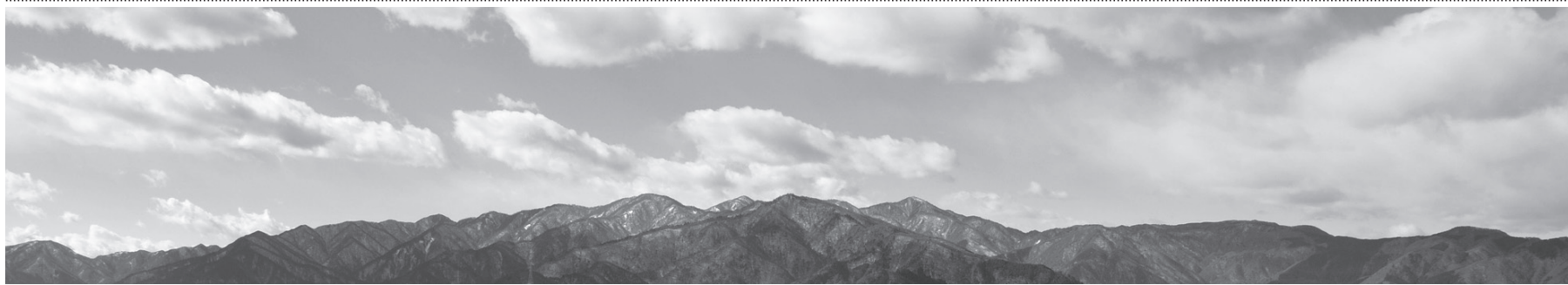
国立病院機構神奈川病院 院長就任



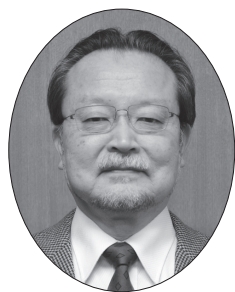
橋詰 壽律 (63回)

私、橋詰壽律(はしづめとしのり呼外63回)は平成30年4月1日 国立病院機構神奈川病院の病院長を拝命いたしました。当院は昭和14年に傷痍軍人神奈川療養所として創立されて以来79年の歴史のある病院です。昭和20年には厚生省に移管され国立神奈川療養所として発足し、昭和49年に国立療養所神奈川病院と改称され、多くの方々に「神奈療」の愛称で親しまれていただきました。平成16年には独立行政法人に移行され現在に至っております。

現在、当院は病床数350床を有しており一般病棟が180床(4病棟)、重症心身障害児(者)病棟120床(2病棟)、結核病棟が50床(1病棟)で稼働しております。診療内容の特徴は呼吸器の専門病院として呼吸器内科医4名、呼吸器外科医4名を有して



独立行政法人国立病院機構 神奈川病院 院長退任



根本 悦夫(56回相当)

平成30年3月31日をもって、独立行政法人国立病院機構神奈川病院院長を退任致しました。これまで、刀林会ならびに三四会の諸先輩、諸先生がたには、大変お世話になって参りました。厚く御礼申し上げます。私は、昭和52年に外科学教室に入局し、佐野厚生総合病院、芳賀赤十字病院へのフレマン出張の後、石原恒夫助教(当時)の主宰する肺外科研究室に入りまし

た。ポストチーフで国立療養所晴嵐荘病院(現、国立病院機構茨城東病院)に出張し、その後、国立病院機構南横浜病院、川崎市立井田病院を経て、平成21年7月に神奈川病院に参りました。赴任当時の神奈川病院は、一般220床、結核50床、重症心身障害児者100床で、老朽化した病棟の建替整備が喫緊の課題でした。市来寄潔前々院長、加勢田静前院長の御尽力で、重症心身障害児者病棟は、120床の新病棟と

して平成26年2月に竣工しましたので、平成26年4月の院長就任とともに、一般病棟の建替整備が小生に引継がれました。平成26年8月には、急性期病棟の在院日数維持のため、地域包括ケア病棟40床を導入しました。神奈川病院は50床の結核病棟を抱えています。結核患者の減少に加え、入院基準の変更で排菌期間のみの短期間入院となった現在、空床が目立つ結核病棟は病院にとって大きな負担となっております。50床の結核病棟を抱えているのは、一般病棟の建替整備ができず、病院の存続が危ぶまれます。神奈川と交渉し、病棟建て替えの際には結核病棟を30床に減床可との回答が得られ、平成28年に国立病院機構本部から、一般病棟210床(内、ユニット化結核病棟30床)で建替整備計画が承認されました。予定より遅れておりますが、建て替えは進行中です。外来管理棟の更新は次の課題です。

神奈川病院は県西部の秦野市にあり、隣接市には平塚市民病院、伊勢原協同病院、東海大学医学部付属病院等があります。臨床研修必修化による新卒医師の都市部集中のありを受け、神奈川県では西に行けば行くほど、医療過疎になっていく現状があります。慶應義塾大学、東海大学、東邦大学大橋病院から支援を受けておりますが、徐々に医師確保が困難となり医師の老齢化が進んでおります。新しい専門医制度の下では、さらに医師確保が困難になるのではと危惧しております。神奈川病院は、地域医療支援病院として、この地域の医療を維持する上で、その存在意義は大きく、一般病棟建て替え後は、さらに充実・発展させていく必要があると考えております。これからの刀林会の皆様のご支援が是非とも必要です。宜しくお願ひ申し上げます。

帝京大学溝口病院 教授就任



松谷 哲行 (75回相当)

2018年4月より帝京大学医学部附属溝口病院外科教授を拝命いたしました。就任にあたり、多大なご支援を賜りました刀林会の諸先生方、特に帝京大学医学部長川村雅文先生(61回)、慶應義塾大学呼吸器外科教授淺村尚生先生に厚く御礼申し上げます。私は、1996年3月に防衛医科大学校を卒業し、尾形利郎防衛医科大学校元校長が開設された田中勸教授(38回)の第2外科に入局しました。2年間の初期研修の後に、国立療養所晴嵐荘病院(現、茨城東病院)で慶應義塾大学呼吸器外科研究室の先生方に指導いただきました。2000年に前原正明教授(54回)に代わりした教室に帰室しました。前原教授とは領域が違いましたが、低侵襲手術の指導をうけセントルイス大学への留学の機会をいただき、国内初の胸腔鏡下心房細動手術を防衛医科大学校で行うことができました。研究面でも人口赤血球を用いた肺外呼吸の研究指導をいただき博士号の取得および日本外科学会研究奨励賞を受賞することができました。

このたび、第32回日本内視鏡外科学会総会を2019年12月5日(木)7日(土)の3日間、横浜にて開催させていただきました。テーマを「Challenge for Innovation」とし、我が国が最も得意とする「知と技」の結晶ともいえる「手技や技術の革新」について、発案から完成、そして臨床での実用化までの挑戦の過程を発表や展示などを通じて会員と共有し、次の一歩へ繋がるよう想いを込めました。日本内視鏡外科学会は「内視鏡外科手術に関する研究、教育およびその普及、発展に努め、会員相互の連絡、ならびに関連機関との連絡を図り、もって国民の福祉の増進に寄与することを目的」として1990年に設立された学術団体です。今では会員数13、600名を超え、第2代理事長に北島政樹先生(45回)が、そして現在の理事長に渡邊昌彦先生(58回)が就任され、我が国における内視鏡外科学の指導的役割が引き継がれています。学術団体の最も重要な事

第32回日本内視鏡外科学会総会 会長を拝命して



東海大学医学部消化器外科 領域主任教授 小澤 壯治(60回)

業の1つとされる学会総会の開催は、研究会時代より刀林会の先輩方が主催されることが多く、1992年に第3回研究会を掛川暉夫先生(33回)、1993年に第5回研究会を比企能樹先生(37回)が務められました。1995年に学会へ改称後は1996年に第9回総会を北島政樹先生、1998年に第11回総会を故成毛韶夫先生(37回)、2010年に第23回総会を森川康英先生(49回)、2012年に第25回総会を松本純夫先生(52回)、2014年に第27回総会を若林剛先生(61回)、そして2016年には第29回総会を渡邊昌彦先生が主催されました。私は9人目の総会担当者となります。このように慶應義塾大学医学部外科の先生方との繋がりの深い学会の総会会長を拝命し、たいへん名譽なことと誇りに思う一方で、その重責に身が引き締まります。私が助手だった1991年に内視鏡外科手術に出会い、「患者さんに優しい傷の少ない手術」を追求するため、故大上正裕先生を筆

吉秀先生、そして若林剛先生とともに夢中になって修練を積み、安全な普及を目指しました。私がまだ30代の頃の話です。若手外科医の可能性を信じて新しい挑戦を受け入れ、瞬く間に基盤整備を行い、実践と検証の機会を与えてくださったのが北島政樹先生でした。当時を思えば、組織を率いる長としてたいへん勇気のいることだったと思います。先見の明に優れた素晴らしい指導者と高い志をもった先輩、同期、後輩たちに恵まれて今日があります。そこで本総会を通じて私ができることは、若手医師による研究成果発表の機会をできるだけ多く設け、十分に検証し、飛躍の一助となるよう後押しすることだと思ひます。歴代の先輩方より受け継いだ伝統を大切に学際色豊かな学会総会にする所存です。刀林会の先生方におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 会長を拝命して



帝京大学医学部 医学部長
外科学講座主任教授
川村 雅文 (61回)

この度、2019年7月4日(木)、5日(金)に東京ドームホテル(文京区)にて第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会を開催させていただきます。日本呼吸器内視鏡学会は世界で初めて気管支ファイバースコープを開発した池田茂人先生(31回生・外科)らが中心となって昭和53年に日本気管支研究会として発足し、その年に第1回学術集会を開催されました。第6回(昭和58年)からは日本気管支学会と学会に昇格し、更に第26回(平成15年)からは胸腔鏡、縦隔鏡などの胸部疾患の診療に係る内視鏡全般を包括するためその名称を日本呼吸器内視鏡学会に変更して現在に至っています。歴代の会長として本塾からは池田茂人先生(第2回)、小林紘一先生(第30回)、金子昌弘先生(第32回)が学術集会を主催されています。

現在の日本呼吸器内視鏡学会の会員数は6700名を超え、呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科、病理など幅広い範囲から医師、他のメデイカルスタッフの人々が参加しています。扱分野も単なる気管支鏡による診断・治療に止まらず、気管・気管支に関する再生医療を含めた基礎研究から喘息・COPDに対する interventional pulmonology、気管・気管支病変に対する手術あるいはステントなどの intervention 治療、胸腔鏡を用いた胸膜疾患に対する診断・治療、更にはロボット手術を含む胸腔鏡手術まで呼吸器疾患に対する基礎・診断・治療を広く扱う学会として成長を続けています。今回の学会ではメインテーマとして福沢諭吉先生が北里柴三郎先生に贈られた七言絶句の漢詩「贈医」の一節を頂戴いたしました。上記の如く呼吸器内視鏡の世界にも革新的技術が次々と導入されようとしておりますが、ここは初心に立ち返り改めて我々に課せられた使命に思いを馳せながら呼吸器内視鏡を見つめ直す機会にしたいと考えています。

本学会の根幹となります。気管支鏡を用いた診断・治療技術の普及と教育につきましては特に力を入れていくところであり、本学会は独自の専門医制度をもち2700名の専門医、1400名の指導医を擁しており、本学術集会中にも専門医養成のための教育セミナーやハンズオンセミナーを複数計画しています。また医療安全につきましても気管支鏡を中心とした手技に関する医療安全講習会を予定しています。このように本学術集会は呼吸器内視鏡の分野における新しい知見の発信の場としてだけでなく、既存の技術の確実な伝承を通して国民に対して安全安心な医療を提供することを重要な使命としています。

東京都済生会中央病院は、大正4年、初代院長に北里柴三郎先生(後に慶應義塾大学医学部初代医学部長に就任)を迎えて創立された全国済生会80病院の基幹病院です。第2代外科医長茂木蔵之助先生は、後に慶應義塾大学医学部外科教室の初代教授となられ、当院で10年間外科医長を務めておられた島田信勝先生は慶應義塾大学医学部一般・消化器外科初代教授に当選され、当院と外科学教室とは大変長く深い関係にあります。

当院は、535床を有する急性期病院で、昨年5月に、地下1階地上14階の新病棟をオープンし、活気に満ちています。外科関係では、今まで7室であった手術室をハイブリッド手術室1室を含めた12室に拡張し、全室に術野カメラを備え、すべての手術を録画して居ります。若い外科医師たちにとっては、自らの手術映像を見直せ、大変好評で、医療安全の向上にも寄与しています。

「効能・効果」に関する使用上の注意、「用法・用量」に関する使用上の注意、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

「効能・効果」に関する使用上の注意、「用法・用量」に関する使用上の注意、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤 劇薬、処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること) 薬価基準収載

アロキシ 静注 0.75mg Aloxi. I.V. injection 0.75mg

アロキシ 点滴静注用バッグ 0.75mg Aloxi. I.V. infusion bag 0.75mg

パロノセロン塩酸塩注射液 製造販売元 大鵬薬品工業株式会社 〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27 TEL.0120-20-4527 FAX.03-3293-2451 http://www.taiho.co.jp/ 提携先 HELSINN スイス 2016年9月作成

病院紹介

東京都済生会中央病院

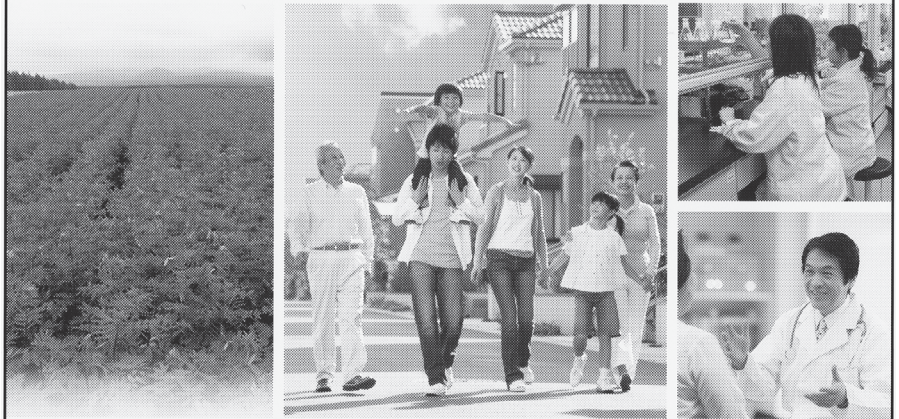


東京都済生会中央病院
心臓血管外科・副院長
廣谷 隆 (59回)

が全ての外科系診療科、救急、薬剤部門、医療技術部門を統括する副院長をさせていただきます。経済的に恵まれない患者さんが減少する代わりに、高度先進化、専門分化によって取り残され、充分な医療を受けられなくなつてまとも、慶應外科の1外科精神を護って居ります。

これら患者さんを受け入れることも使命としています。独居高齢者、多くの疾患を併せ持つ患者、認知症を抱えた患者などです。これらの患者に当院の持つ総合力とチームワークを駆使して「分け隔てのない治療」を実践しており、がん研有明病院、がんセンター中央病院などの専門病院から、がん以外の病気を抱えた患者が毎年1500人ほど、当院の総合力を頼りに紹介されてきています。これからは当院の強みを生かした外科を盛り上げていこうと考えています。

漢方医学と西洋医学の融合により 世界で類のない最高の医療提供に貢献します



自然と健康を科学する 漢方の **ツムラ** <http://www.tsumura.co.jp/>
●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。
【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

第90回日本胃癌学会総会を終えて



国立がん研究センター中央病院
副院長
片井 均 (61回)

2018年3月7日(水)～9日(金)の3日間、パシフィコ横浜(横浜みなとみらい)において第90回日本胃癌学会総会を成功裡に開催することが出来ました。

1962年に日本胃癌学会の前身の胃癌研究会が発足し、第1回の胃癌研究会が同年に開催されました。第70回から日本胃癌学会に発展し、今回は第90回の記念大会となりました。

発表演題数1200題、総参加者数2200名、海外からの参加者250名と盛況な学術集会になりました。これもひとえに学会員や刀林会員の皆様のご支援、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

今回の学会のメインテーマは「ストップ胃癌」としました。胃癌研究会発足時の原点に立ち返り、学会員が日々研究している「胃癌で死なないようにするには、どのようにすればよいか?」ということを予防から治療まで十分議論できるように、運営しました。

また、本学会の使命のひとつとして本邦の優れた診断・治療法を積極的に海外に発信する必要があります。

海外の医師が討論に参加する状況を同時に提供できるように努力しました。

主題演題は完全に英語化し原則として座長の1名は海外から招聘しました。さらに、一般演題の約50%を英語セッションとしました。

初日は胃癌治療ガイドラインと胃癌取扱い規約について情報提供しました。ガイドライン、規約とも改定が行われた直後でしたので、たいへん多くの人に参加していただきました。

特別講演では、医学とは異なる領域の方からの情報収集が大切と考えましたので、未来に向けた最新テクノロジーの紹介として中央大学の鈴木寿教授に「多視点裸眼立体内視鏡システム」の講演、劇団四季会長の佐々木典夫様に「劇団四季の社会貢献」の講演をお願いしました。今後の新技術の開発、外科医教育に大いに役立つ講演でありました。

2日目、3日目はすべての分野の会員が意見を交換することを目的として疫学・予防、基礎研究、橋渡し研究、診断、内視鏡治療、外科治療、薬物療法それぞれについて主題演題として

とりあげました。特に接合部癌の治療に関してはメイン会場から夕方まで疫学から治療までみっちり議論をしていただきました。内科治療に関してはエビデンスのある新薬が目白押しでしたので海外から著名な専門家を招聘いたしました。

「20年後の胃癌治療を語る」では、1000人のメイン会場が圧倒的ななかで、各分野の権威の先生が将来の胃癌治療のあり方、胃癌学会のあり方について、本音の議論熱くかわし聴衆のかたをひきこんでいました。天候は、あいにくの雨でしたが最終日の最終演題まで、すべてのセッションで、多くの参加者に会場にいていただき、熱い議論を戦わせていたことは主催者としてたいへん満足しています。

生涯胃がん死亡リスクはまだ、高く決して満足はいく数字ではありません。「ストップ胃癌」のテーマをかかげ、今後も志を同じくする方とともに努力をする所存です。

第29回日本内視鏡外科学会 収支報告

北里大学教授

渡邊 昌彦 (58回)

項目	合計
I 事前準備関係費	¥44,827,460
1 一般準備経費	(319,860)
2 財務会計	(581,700)
3 運営準備	(7,127,420)
4 企業協賛	(4,000,320)
5 総務・広報	(259,200)
6 接遇	(1,981,800)
7 プログラム	(7,830,960)
8 事前登録関係	(2,929,068)
9 通信費	(587,329)
10 会議費	(1,110,983)
11 制作費	(18,098,820)
II 当日運営関係費	¥181,689,332
1 会場関係費	(42,370,614)
2 機材関係費	(38,683,917)
3 看板・ポスター・パネル関係施工費	(6,820,108)
4 運営要員関係費	(14,259,557)
5 CARM(参加受付自動機)利用経費	(4,979,880)
6 ランチオンパスポート	(1,234,920)
7 展示会場関係費	(17,799,403)
8 飲食会場関係費	(35,544,380)
9 招待者関係費	(17,693,793)
10 路経費	(2,302,760)
III 事後処理費	¥577,856
IV 運営委託業者業務管理費	¥3,914,034
V 納税準備金及び学会返納金	¥30,053,838
合計	¥261,062,520

会場：パシフィコ横浜
会期：2016年12月8日(木)～10(土)

項目	金額
I 参加費収入	¥88,741,000
参加登録費	(86,221,000)
1 現金決済分	(14,832,000)
2 クレジットカード決済分	(71,064,000)
3 その他	(325,000)
拡大プログラム委員会	¥2,520,000
4 拡大プログラム委員会	(2,520,000)
II プログラム集販売	¥699,000
プログラム集販売	¥699,000
1 事前販売	(93,000)
2 当日販売	(606,000)
III 共催セミナー	¥53,244,000
合計	¥53,244,000
1 Educational SeminarA(1000名)	(6,480,000)
2 Educational SeminarB(300~400名)	(27,540,000)
3 Educational SeminarC(200~299名)	(10,368,000)
4 Educational SeminarD(100~199名)	(1,080,000)
5 ハンズオンセミナー	(1,620,000)
6 Educational Symposium	(2,160,000)
7 Educational Symposium	(1,836,000)
8 AFPCS2016	(2,160,000)
IV 商業展示関係	¥84,272,400
1 医療機器出展料	(70,956,000)
2 JJ社ホスピタリティスペース	(9,720,000)
3 オリジナル	(2,916,000)
4 書籍展示(会議センター)	(453,600)
5 書籍展示(展示ホール)	(172,800)
6 音響展示(会議センター)	(54,000)
合計	¥8,626,000
V 広告関係費	¥8,626,000
1 プログラム集:表4	(540,000)
2 プログラム集:表3	(540,000)
3 プログラム集:後付1頁	(432,000)
4 プログラム集:後付1/2頁	(270,000)
5 ハンディ日程表広告	(1,080,000)
6 オリジナル	(5,764,000)
VI 寄付金・助成金	¥23,752,120
1 寄付金(企業等)	(4,500,000)
2 助成金(ワックスマン財団)	(8,520,000)
3 学会本体拠出金	(10,000,000)
4 学会からの補助金(SAGES関係)	(732,120)
VII 雑収入	¥1,728,000
1 附属研究会会場費一部負担金	(1,512,000)
2 関連会議会場費一部負担金	(216,000)
3 解約利息	(0)
合計	¥261,062,520

第58回日本肺癌学会学術集会 第18回世界肺癌学会議 収支報告

慶應義塾大学医学部
外科(呼吸器)教授

浅村 尚生 (62回)

項目	金額	備考
事務総経費	36,942,255	
印刷物・ホームページ制作費	8,706,874	
打合せ関係費	4,460,853	
ロケハン費	3,182,000	
消耗品費	758,467	
小計	55,030,449	
会場費	18,440,352	(株)コンプレの請求書に基づき
会場設営費	42,589,413	
運営人件費	10,675,146	
運営経費	1,090,000	
招待者招待費	12,006,370	
料飲費	26,669,637	
小計	111,470,918	
事後処理費	497,496	お礼状作成費・発送費等
業務委託費	10,735,274	
学会本部補助金返金	12,000,000	
消費税	8,909,995	
納税準備金・予備費	16,000,649	
小計	214,674,781	
監査対応準備費	1,080,000	
監査準備対応費	1,080,000	
日本学術会議対応準備費	1,080,000	
学会招致準備費	2,043,880	
運営経費	1,735,274	
合計	¥221,683,935	

*世界肺癌学会(IASLC)管理分は除く

第58回日本肺癌学会学術集会 第18回世界肺癌学会議 収支報告書

項目	金額	備考
参加費	60,018,000	
拡大プログラム委員会費	1,105,000	
日本肺癌学会補助金	12,000,000	
セミナー共催費	62,115,400	全部で37社
展示費	67,564,800	
広告料	2,705,400	ホームページ広告など4社
団体・企業寄附金	8,166,181	
小計	214,674,781	
世界 団体・企業寄附金	7,018,154	
合計	¥221,683,935	

日本小腸移植研究会 研究奨励賞受賞報告



慶應義塾大学医学部
外科 (小児) 教授
黒田 達夫 (61回)

平成30年2月10日に宮城県仙台市(ハーネル仙台)で開催された第30回日本小腸移植研究会において小児外科学教室の森嶺三郎君(89回)が研究奨励賞を受賞しました。

後のフォローアップまでの臨床や、基礎研究に關して幅広い領域の発表と討論がなされました。

本研究会は消化管機能性疾患に対する移植治療の討論の場として、昭和63年に移植外科、小児外科の医師らを中心に発足した研究会であります。今回はテーマとして「腸管リハビリテーションにおける小腸移植の意義」が取り上げられ、小腸移植を必要とする疾患における移植前治療から移植

今回の受賞演題は「小腸移植後至適免疫抑制プロトコル作成に向けたカニクイザル小腸移植モデルの確立」です。現在、腸管運動不全の患者を救う唯一の根治的な治療は小腸移植ですが、移植後成績の低さから広く普及するには至っておりません。同君は、小腸移植の治療成績を向上させる鍵は、免疫抑制プロトコルの改善にあると考え、カニクイザルを用いた小腸移植



小腸移植医療への
熱い想いを語る森君 (89回) (左)

研究に積極的に参加し、その進捗の一部を研究成果として報告しました。小腸移植に關するカニクイザルなど大動物での研究モデルや、ヒトと同様のプロトコルで管理を行って拒絶反応の状況を評価した報告は世界でも希少です。同君を含む当教室研究グループは山田洋平君(81回)の先導の下、滋賀医科大学の動物生命科学研究センターのスタッフ、一般・消化器外科や婦人科の先生方にもご協力いただき、共同で小腸移植医療の発展を目指して研究を行ってきました。

今回はカニクイザルという新たな動物モデルを構築した貴重な報告であることと、この研究の発展性や将来性が高く評価され、受賞に至ったものです。受賞後、森君は、小腸移植が保険収載されたこともあり、今後研究を進めることで、腸管運動不全で悩む患者とその家族を救いたいという抱負を語りました。今後の益々の活躍に期待したいと思えます。

2017年度 刀林賞選考報告



刀林賞選考委員会
委員長
幕内 博康 (49回)

2017年度刀林賞選考委員会は2018年2月27日北島政樹理事長ご臨席のもと慶應外科会議室で開催されました。出席委員5名、評価表提出委員6名で今回もすばらしい論文5

編が応募され、臨床に關する論文や容易に臨床応用可能な基礎的論文が多い印象がありました。委員11名の採点結果の集計表が提示され、総合点は51.0から35.5、平均点は4.64から3.23となりま

したが、点数はかなり近接していました。まず、刀林賞として大島論文、狩野論文、鈴木論文が挙げられ議論がなされました。鈴木論文は臨床論文であり、大島論文と狩野論文は早期の臨床応用が可能な基礎論文

で、鈴木論文を推す意見も少なくありませんでした。選考委員11名の評価では狩野論文51.0、鈴木論文45.6であり、満点5点をつけた委員は狩野論文8名、鈴木論文2名、刀林賞可としたのは前者7名、後者3名でした。最終的に狩野論文を刀林賞に推薦することとなり、奨励賞は大島論文と鈴木論文と決定しました。評価がIFに引っぱられる傾向があるとの意見があり、IFを記載するか止めるかとの議論の結果やはり記載していただくこととなり、また、今回は、臨床論文を強く推す旨周知することとなりました。

選考委員の皆様には詳細な査読と貴重なご意見を賜り感謝申し上げます。

平成 30 年度刀林賞募集

刀林賞は、刀林会の以下の優れた業績に対して授与されます。奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

- 1. 臨床的研究
- 2. 临床上、有用な基礎的研究
- 3. 医学上の社会活動に關する研究
- 4. 本会の発展に著しく貢献したと考えられる業績

刀林会刀林賞/毎年1編以内 副賞: 50万円

刀林会奨励賞/毎年2編以内 副賞: 10万円

応募資格/

- 1. 査読システムのある医学雑誌に、当該選考年の11月30日までの直近2年間に、掲載又は掲載確定となった学術論文の筆頭著者
- 2. 応募は1人1編とする
- 3. 症例報告は応募の対象とならない
- 4. 刀林賞受賞歴のない者
- 5. 刀林会会費完納者

ただし、医学上の社会活動に關する研究、本会の発展に著しく貢献したと考えられる業績に關しては、応募資格1, 2の限りではない。

応募方法/

- 1. 毎年7月1日から11月30日までの間に、応募用紙(ダウンロード)を用いて応募する。
 - 2. 前項記載の応募用紙は、本会ホームページ記載のものをダウンロードして用いる。
 - 3. 応募者の指導者ないし、指導教授1名の推薦状(書式: 応募用紙中)を要する。
- ただし、第2条3および4の対象者に關しては、本会理事又は、監事1名の同様推薦状とする。

受賞者は、6月の総会にて表彰されます。また、刀林新聞に論文の概要が掲載されます。

以上



留学報告

ボストン留学記



慶應義塾大学医学部 外科 (一般・消化器) 茂田 浩平 (85回)

2016年4月より米国ボストンのマサチューセッツ総合病院(MGH)放射線腫瘍学講座、Edwin L. Steele Laboratoriesに研究留学させて頂いております。当研究室はRakesh Jain教授が統括しており、その下でJain教授を含む8人のPrincipal Investigator (PI)がそれぞれの研究室を...

シャンが所属しており、各自のバックグラウンドや専門性を生かして各々のプロジェクトを遂行しています。私は、その中の研究室の一つであるDan G. Duda博士の研究室に所属し、ポスドク研究員として消化器癌の研究に従事しております。

腫瘍微小環境の改善による腫瘍免疫応答の改善を大きなテーマとし、主に肝細胞癌の研究プロジェクトを任され、日々研究に勤しんでおります。腫瘍免疫という現在の癌治療のトピックスである研究に携わるとともに、研究成果の臨床試験への応用などが治療の最先端を間近で学ぶことのできる素晴らしい環境にあります。

最後に、大変貴重な留学の機会を与えてくださった北川雄光教授、長谷川博俊先生ならびに慶應義塾大学医学部小児外科に帰室いたしました。黒田教授ならびに諸先輩方のご高配により、40年を超える歴史のある研究室で大変貴重な経験をさせて頂きました。

このたびは私、2015年5月より約3年間、米国ボストン市のマサチューセッツ総合病院小児外科研究室での研究留学を終えて、2018年5月に慶應義塾大学医学部小児外科に帰室いたしました。黒田教授ならびに諸先輩方のご高配により、40年を超える歴史のある研究室で大変貴重な経験をさせて頂きました。

シカゴ大学はシカゴ市内から車で20分ほど離れたハイドパークという静かな街の中にあります。オバマ大統領の家があることで有名らしいです。とにかく寒いですが、日本食レストランなども充実しており、不自由なく暮らしていただけます。

シカゴ大学では年間600例ほどの心臓手術を行っています。心不全治療に力を入れているのと、ロボット手術が多くののが特徴です。心不全領域では通常のLVADに加え、経皮的RVADや植え込み型鎖骨下IABPなどの新しい循環補助デバイスの開発、臨床使用を積極的に行っています。ロボット手術ではTotally endoscopic coronary artery bypassが非常に多く、多い週は毎日のように行っています。



Duda 研究室のメンバー (2017年10月) Dr. Dan Duda は左から4番目、筆者は左から5番目

す。当研究室はトランスレーショナルリサーチをメインとしており、様々な新規治療の開発、効果の検証を行っています。扱う癌種は多岐にわたり、肝細胞癌、胆管癌、膵癌、胃癌などの消化器癌に加え、前立腺癌、乳癌も対象としてい

ます。マウスにおいて有効性の認められた新規治療については、共同研究を行っている臨床医とのディスカッションのもとに臨床試験の計画を行い、Benchmark Bedsideを実践しております。私は、当研究室で腫瘍免疫応答の改善を大きなテーマとし、主に肝細胞癌の研究プロジェクトを任され、日々研究に勤しんでおります。腫瘍免疫という現在の癌治療のトピックスである研究に携わるとともに、研究成果の臨床試験への応用などが治療の最先端を間近で学ぶことのできる素晴らしい環境にあります。

最後に、大変貴重な留学の機会を与えてくださった北川雄光教授、長谷川博俊先生ならびに慶應義塾大学医学部小児外科に帰室いたしました。黒田教授ならびに諸先輩方のご高配により、40年を超える歴史のある研究室で大変貴重な経験をさせて頂きました。

このたびは私、2015年5月より約3年間、米国ボストン市のマサチューセッツ総合病院小児外科研究室での研究留学を終えて、2018年5月に慶應義塾大学医学部小児外科に帰室いたしました。黒田教授ならびに諸先輩方のご高配により、40年を超える歴史のある研究室で大変貴重な経験をさせて頂きました。

シカゴ大学はシカゴ市内から車で20分ほど離れたハイドパークという静かな街の中にあります。オバマ大統領の家があることで有名らしいです。とにかく寒いですが、日本食レストランなども充実しており、不自由なく暮らしていただけます。

シカゴ大学では年間600例ほどの心臓手術を行っています。心不全治療に力を入れているのと、ロボット手術が多くののが特徴です。心不全領域では通常のLVADに加え、経皮的RVADや植え込み型鎖骨下IABPなどの新しい循環補助デバイスの開発、臨床使用を積極的に行っています。ロボット手術ではTotally endoscopic coronary artery bypassが非常に多く、多い週は毎日のように行っています。

シカゴ大学では年間600例ほどの心臓手術を行っています。心不全治療に力を入れているのと、ロボット手術が多くののが特徴です。心不全領域では通常のLVADに加え、経皮的RVADや植え込み型鎖骨下IABPなどの新しい循環補助デバイスの開発、臨床使用を積極的に行っています。ロボット手術ではTotally endoscopic coronary artery bypassが非常に多く、多い週は毎日のように行っています。

留学報告



シカゴ大学 北原 大翔 (87回)

です。シカゴ大学はシカゴ市内から車で20分ほど離れたハイドパークという静かな街の中にあります。オバマ大統領の家があることで有名らしいです。とにかく寒いですが、日本食レストランなども充実しており、不自由なく暮らしていただけます。

シカゴ大学では年間600例ほどの心臓手術を行っています。心不全治療に力を入れているのと、ロボット手術が多くののが特徴です。心不全領域では通常のLVADに加え、経皮的RVADや植え込み型鎖骨下IABPなどの新しい循環補助デバイスの開発、臨床使用を積極的に行っています。ロボット手術ではTotally endoscopic coronary artery bypassが非常に多く、多い週は毎日のように行っています。

シカゴ大学では年間600例ほどの心臓手術を行っています。心不全治療に力を入れているのと、ロボット手術が多くののが特徴です。心不全領域では通常のLVADに加え、経皮的RVADや植え込み型鎖骨下IABPなどの新しい循環補助デバイスの開発、臨床使用を積極的に行っています。ロボット手術ではTotally endoscopic coronary artery bypassが非常に多く、多い週は毎日のように行っています。

シカゴ大学では年間600例ほどの心臓手術を行っています。心不全治療に力を入れているのと、ロボット手術が多くののが特徴です。心不全領域では通常のLVADに加え、経皮的RVADや植え込み型鎖骨下IABPなどの新しい循環補助デバイスの開発、臨床使用を積極的に行っています。ロボット手術ではTotally endoscopic coronary artery bypassが非常に多く、多い週は毎日のように行っています。

シカゴ大学では年間600例ほどの心臓手術を行っています。心不全治療に力を入れているのと、ロボット手術が多くののが特徴です。心不全領域では通常のLVADに加え、経皮的RVADや植え込み型鎖骨下IABPなどの新しい循環補助デバイスの開発、臨床使用を積極的に行っています。ロボット手術ではTotally endoscopic coronary artery bypassが非常に多く、多い週は毎日のように行っています。

帰室報告



慶應義塾大学医学部 外科 (小児) 狩野 元宏 (86回)

な経験をさせて頂きました。この場を借りてまづ心より御礼申し上げます。1973年にPatricia K. Donahoe先生によって立ち上げられた同研究室には様々な国籍の20人を超える研究者が所属していらっしゃいます。Donahoe先生は同研究室の設立以来、臨床と研究を両立しながら40年にわたって主に発生生物学の研究を指導し、特に生殖器の分化に重要なホルモン、ミューラー管抑制因子(MIS)を初めて報告した一人として、世界に知られています。先生です。先天性横隔膜ヘルニア研究の米国における拠点の一つでもあり、肺や横隔膜の発生研究のほ

か、腸管神経を専門に研究するグループも所属するなど、主に小児外科の臨床に則した研究室となっています。また、同研究室はMISを自ら精製し、その機能解析を行っている世界でもわずかな研究室の一つで、世界中の研究者との共同研究を行っています。近年、MISは特に女性における妊産能の指標として注目されており、同研究室が開発した血液中のMISを計測するELISAは世界中で標準的検査として頻用される様になっています。

私はそのMISを研究するグループに所属して、同タンパクの卵巣における働きの研究を主に行っており、MISが卵巣機能の指標となることは知られてきた一方で、MISの卵巣における機能そのものは十分に解明されていませ

ん。私は、発生および生殖生理学が専門のDavid Pepin, Ph.D.の指導の下、マウスにAAV9ウイルスベクターを用いた遺伝子治療を施すことでMISを高発現させたり、精製したMISタンパクを投与したりしてその機能を探るなど主にvivoの実験を中心に行っていました。80歳を超えながらも非常にアクティブで、外科医、科学者、指導者として素晴らしいロールモデルであるDonahoe先生に指導を頂きながら3年間にわたって研究に携われたことは、非常に幸運なことでした。今後はこの貴重な経験を慶應義塾、医学部そして社会に還元できるよう、改めて日本でも頑張りたいと思っております。

地域便り

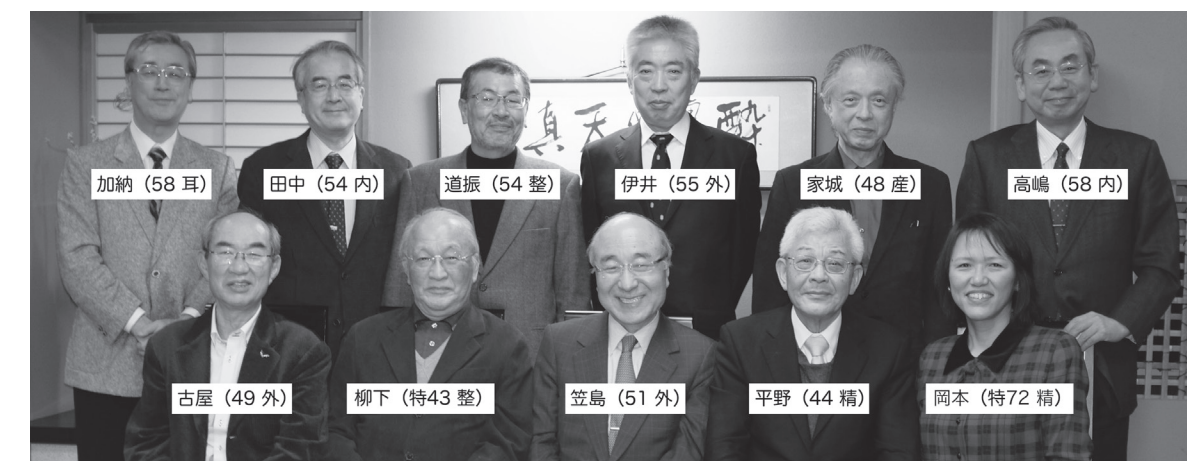
富山からの発信



富山高岡市 医療法人紫蘭会
光ヶ丘病院 理事長・院長
笠島 學 (51回)

今年1月の久しぶりの豪雪には驚きました。一晩で1メートル弱のドカ雪で、車社会になってからの初めての大雪を経験しました。高岡中心に県西部の里雪で、東部の富山市では、さほどでは無かったようです。その後は福井県で大雪となり、北陸線も高速道路も国道も数日ストップしましたが、富山県の方は開通したばかりの北陸新幹線が通常運行していて、ホント助かりました。平成30年豪雪というそうですが、56豪雪から、実に37年ぶりの豪雪でした。

さて、富山県三四会は会員約13人で、減少傾向ですが、年に2回10人ほどが参加して親交を温めています。私が会長を仰せつかっています。県三田会との交流もあります。3年前の平成27年1月の写真に写っている神経内科の田中教授が退官されてから、富山大学に慶應出身者がいなくなり、寂しい限りです。



加納 (58 耳) 田中 (54 内) 道振 (54 整) 伊井 (55 外) 家城 (48 産) 高嶋 (58 内)
古屋 (49 外) 柳下 (特43 整) 笠島 (51 外) 平野 (44 精) 岡本 (特72 精)

川村雅文編集委員長の下、私も刀林新聞の編集委員に加えていただき、女性外科医の視点からの企画ということで第109号より「なでしこ外科医」がスタート致しました。今回ご指名いただきましたので、寄稿させていただきます。

私の外科入局のきっかけとなったのは、研修医なり立ての外科ローテーションの際、外科の諸先生方の患者さんや手術に対する熱い姿勢に感銘を受け、一気に外科の魅力に引き込まれたからと感じています。それでも、最終的に入局を決めるまでには、外科医として自分がやっていけるの不安がありました。好きなことは多少忙しくても頑張れるが、興味の無いことをするのはいくら暇でも辛いものだ。と、外科の女性の先輩からお言葉をいただき、自分の気持ちに素直



帝京大学医学部外科
松本 暁子 (86回)

なでしこ外科医

にやりたいことを選択しよう。と決意したのを覚えています。外科入局後の修練では、患者さんと同じ女性としての立場から診断・治療に携わることのできる乳腺外科に惹かれ、専門として選択致しました。稲城市立病院でのポストチーフ出張を経て、2016年から帝京大学医学部外科に勤務させてくださいたいです。現在、神野浩光教授のご指導の下、私とレジデントの3名で乳腺グループの診療を行っております。臨床、研究いずれにおいても未熟な自分を痛感することも多いですが、大好きな乳腺外科の仕事に打ち込める環境をいただき、大変充実した毎日を送っております。ご存知の通り乳腺外科においては、若手医師にお

ける女性の割合が増加してあり、乳腺専門医の約1/4が女性です。女性としてのライフイベントと外科医としてのキャリアの両立が大きな課題として昨今取り上げられておりますが、女性外科医それぞれの目指す医師像、職場や家庭での役割、人生設計は異なります。女性外科医のキャリアプランを支える体制整備だけでなく、男性・女性医師間、さらに女性医師同士がお互いの立場を理解し合える環境が重要であると実感しております。パワフルで輝く先輩「なでしこ外科医」の皆様をお手本とし、後輩が一人でも多くキャリアアップしていけるよう、私自身も責任・感謝・探究心を忘れず精進して参りたいと思っております。

このたび「なでしこ外科医」ということで投稿の機会を賜りまして大変恐縮しております。何の功績もないのですが女性外科医としての自分の現状について書かせていただきます。自分の手を使って患者さん

を治したい、それなら外科医になろう、そう思っ外科に入局したのは10年前。D3D4出張そしてD5レジデントとみんな平等な慶應のプログラムに必死についていく毎日でした。ところがD5の終わりに妊娠をし「女性だから」助けを求めなければならぬ事態になりました。毎日忙しく疲れはてた同期に妊娠したことを伝えるのは非常に言い出しにくいものでした。当時大学レジデント中に妊娠出産をむかえるのは



慶應義塾大学医学部
外科 (一般・消化器乳腺班)
関 朋子 (85回)

現在の専修医制度になつてからは初めてのことでしたので、どのぐらい働けるのか、周りのバランスをどう保つのか、など様々な問題がありました。北川教授をはじめ先輩方に検討いただき自分の場合は6か月の育休のうちに当面は「9時〜5時業務」なるべく皆が嫌がる病棟業務を中心に従事する」などの決まりのもとに無事復帰ができました。たくさんの迷惑・負担をまわりの先生方にかけてしまい、それは今でも感謝しきれません。おかげさまで、現在こどもは小学生一年生、自分は大学乳腺班スタッフとして手術や外来業務に携わらせていただいております。母であり、外科医でもある。こんなに幸せなことはありません。

女性外科医が増加傾向にあるなか、女性医師とくに妊娠・出産イベントをむかえた場合の働き方について近年話題にあがる事が多くなつて参りました。教室でも育児休暇の取得や当直業務の免除などの優遇をうけることができます。ただ、医師が一人労働制限をすれば、必ず他の医師に仕事を任せがいく。それを常に意識しつつ、自分ができる業務を子どもの成長とともに増やしていく努力が優遇をうける女性医師側の義務だと思います。子持ちになると医者業を縮小させたままになつてしまう女性もいます。が、それはもつたない！初めで目指した外科医への道を変わずあゆみ続けたいと私は思います。

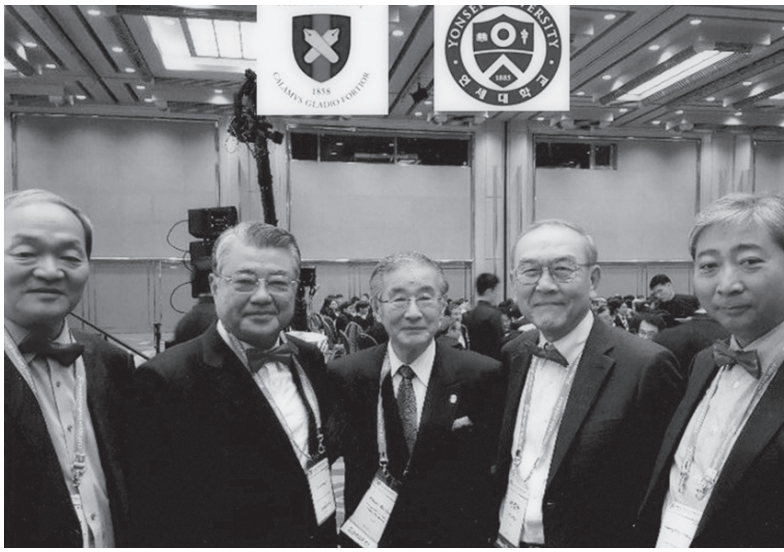
国際委員会について



刀林会国際委員会委員長
慶應義塾大学医学部外科(一般・消化器)

八木 洋(77回)

北島政樹理事長のご発案で、刀林会の今後の国際交流を推進するために、将来構想委員会内に国際委員会が設立され、構成員として委員長を八木洋(一般・消化器77回)が務め、委員として各部門から菱田智之(呼吸器77回相)、高橋辰郎(心臓血管81回)、山田洋平(小児81回)、小野滋司(一般・消化器81回)の計5名



北島政樹刀林会理事長 2017年韓国外科学会特別講演にて：延世大学同窓会前会長 Noh 先生(左端)、同会長 Yoon 先生(右端)と共に

が就任いたしました。去る2018年1月26日に第一回委員会が慶應義塾大学外科学教室会議室にて開催され、北島政樹理事長(45回)、松本純夫副理事長(将来構想委員会委員長52回)、尾原秀明外科学教室幹事(国際委員会顧問72回)のご出席の元、活発な意見交換が成されました。北島政樹理事長のご推薦で、まず韓国の延世大学外科同窓会との交流事業をきっかけに国際展開する案が検討され、すでに前同窓会会長の Sung Hoon Noh 教授、現同窓会会長の Dong-Sup Yoon 教授にご承認いただいていることがご報告されました。

本委員会の審議の結果を受けまして、3月8日に横浜で開催されました日本胃腸学会会長の片井均先生(国立がん研究センター中央病院副院長61回)に北島政樹理事長からお声掛けをいただき、片井先生のご高配で、本学会のために来

日された Sung Hoon Noh 教授にご挨拶をさせていただきました機会を頂戴いたしました。北島政樹理事長のご同席の元で、委員長の八木が国際委員会開催のご報告と今後の交流事業につきまして説明をさせていただきました。喜んでご協力いただけ

る旨を確認いたしました。今後 Dong-Sup Yoon 教授が、6月7日、日本肝胆膵外科学会30周年記念学会に來日する予定であり、お会いしたいと思っております。また北島理事長の多大なご尽力によって本事業に

関わるご寄付を頂戴し、三橋国際基金(仮称)として国際交流や留学支援などに充てるための基盤整備が構築されました。今後の若手外科医の相互交流や他国同窓会への展開など、刀林会の飛躍的な発展に繋がる事業として期待されます。

私は脳卒中の治療、手術、研究を専門としてきました。永年の臨床経験を通して、脳血管障害発症後の治療には限界があると感じていました。そこで開業を機に、脳血管障害の原因となる肥満症、高血圧、高脂血症、糖尿病などの治療、特に最上流にある肥満を治療しようと考え、「肥満大学」を開設しました。方法としては、自分の専門である脳科学的な知識を応用し、臨床心理士とともに認知行動療法を用いた治療を行いました。その結果、医学的に裏付けられた「肥満の心理療法」を肥満治療のひとつの方法として確立することができました(慶應医学84(4):227-236, 2007)。

この内容を一般向けにして講談社より出版したものが「キアラチェンジダイエット」です。サラダを食べなくてもビールを飲んでも、先月も今月も体重が変わらないのは何故か?それは視床下部にある満腹中枢が食べ物の種類に関わらず食べる量を一定にしているからです。カロリーの半分を食べると脳はそれを二つ食べると命令するので総摂取量は変わりません。体重を減らせたいのは、三日間徹夜が出来ないと同じ事で、視床下部の命令によりどうしても食べてしまうからです。満腹中枢は脂肪から出る

私の著書

Dr. さとうの「肥満大学」プログラム

キアラチェンジダイエット 講談社

佐藤診療所
佐藤 周三(56回)

レプチンにより制御されていますので、脂肪が減ることにより回復が始まります。つまり、体重が減った時点では満腹中枢はまだ壊れたままです。満腹中枢の感受性の回復は人にも寄りますが1年位はかかります。体重が減ってもその時点ではまだ脳の感受性は回復していません。体重減少と脳の回復にはタイムラグがありますので、当然リバウンドをします。つまりダイエットはカロリー制限をしたり運動をすることではなく、満腹中枢の感受性、「キアラ」を変えることと減量後の維持管理だったのです。ではどうやって? ここから先は料金がかかります(笑)。しかし、論文を参考に

Dr. さとうの「肥満大学」プログラム

キアラチェンジダイエット

佐藤周三 (精神科外科)

講談社

献血 **ヴェノグロブリン IH5%** 静注 5g/100ml・10g/200ml
Venoglobulin IH5% i.v. 0.5g/10ml・1g/20ml・2.5g/50ml・5g/100ml・10g/200ml

献血 **ニアート** 静注用 500単位・1500単位
Neuart i.v. 500units・1500units

製造販売元(資料請求先) 一般社団法人 **日本血液製剤機構** 東京都港区浜松町2-4-1

VGX-NAT(A5 1/2) 2015年5月作成

外科学教室 新入室者紹介



慶應義塾大学医学部

細川 恭佑
(93回相当)

出身高校：函館ラ・サール高校
出身大学：金沢大学
クラブ：樺太・準硬式野球部

この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました93回生相当の細川恭佑と申します。昨年度練馬総合病院にて修練を積ませて頂き、今年度より慶應義塾大学にて修練させて頂いております。

伝統ある当教室の一員とさせて頂くことを誇りとし、日々精進してまいりますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



慶應義塾大学医学部

村田 哲
(94回相当)

出身高校：暁星高校
出身大学：日本大学
クラブ：樺太・陸上競技短距離

平素より大変お世話になっております。94回生相当の村田哲と申します。遅れての掲載となりご迷惑をお掛け致しました。今年度から心臓血管外科専修医となります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

(平成29年入室、前号未掲載)



近況報告

41〜42回生



嶋田 貞博
(41回)

慶應では、一般・消化器外科の乳腺班に所属してまいりました。福井市に隣接する坂井市で医療法人博俊会春江病院(137床)の理事長職を勤めた後、2年前病院の新築移転を機に次男俊之に任せ、私は会長職に退

き外来のみ担当していません。常勤医は14名ですが、福井大学、金沢大学の関連病院として約20名の非常勤医師を派遣して頂いております。10年前に間質性肺炎でステロイドの Puls 療法を受けましたが、2年前に離脱できました。羅患前は同級生の丸山圭一君を団長とするスイススキーターに毎年参加し刀林会の方々とも交流がありました。呼吸機能・筋力低下でスキー・ゴルフもやめ友人や孫たちの来訪を楽しみにするようになりました。



坂東 健史
(41回)

現在、町田胃腸病院の理事長職に就いております。小生は70歳で手術、内視鏡を他の医師に任せて、外来診療を週4日診ております。

病棟数は50床で、3年前より眼科を併設いたしました。常勤医6人(慶應一人、日医三人、保健衛生一人、



国際医療福祉大学・山王メディカルセンター 外科

丸山 圭一
(41回)

とても元気です。2002年に30年間勤務し

た国立がんセンターを停年退職したあと、山王病院に勤めて16年になります。胃腸手術が専門でしたが、3年前に78才でメスを置きました。今は週一日の外来のみで、楽な生活です。一人娘は結婚して名古屋暮らし、孫娘が3人います。妻との2人暮らしも14年になりました。胃癌の学会、スイスや北海道のスキー、海外の旧友を訪ね、オペラや絵画館を楽しんでいます。昨年ブダペスト・ゼンメルワイス大学名誉教授に推戴されました。



勝呂 俊彦
(42回)

私は今年で傘寿を迎え元気にしています。昨年は卒業後五十周年で塾より招待さ

れ、全員で若き血を歌い塾を卒業したことを誇りに思いました。外科学教室では食道班に所属し掛川暉夫先生の御指導を受けました。国立大蔵病院(現国立成育医療研究センター)に出張の後、二子玉川で胃腸科を開設しました。6年前に後任の方に譲り、現在は企業、学校、某健診センターで健診医をしています。



小平 進
(42回)

帝京大学外科学教授を退任(平成16年3月)してから早くも14年が過ぎ、今年で満80歳を迎えることにな

りました。この間、練馬総合病院外科、川久保病院健診センター、池袋病院付属クリニックにて週4〜5日働いてきましたが、この度練馬総合病院を退職し、患者さんを診療する仕事は辞めました。現在は脊柱管狭窄症による間欠性跛行に悩んでおり、ゴルフも年3〜4回に減ってしまっています。昨今は、高齢者の自動車運転が騒がれていますが、妻とのドライブを楽しんでいます。



古谷 健二
(42回)

平成8年に田無病院院長を辞し22年になります。東久留米市で消化器科、内科

で開業しました。外科は膿瘍切開くらいしかやりません。高校の校医も75才で停年となり年1回の身体検査の手伝いも辞め、医師会の休日診療も本年度から辞めました。産業医2箇所、特別養護老人ホームの嘱託医をしています。仕事以外では週2回、日、木にJR高尾駅から高尾山に登っています。上り1時間半、下り55分、1万6千歩くらいです。年に65回くらい登りますので1000回以上登ったでしょう。これからも登るつもりです。



牧田総合病院 脳神経外科

忍田 欽哉
(42回)

平成元年、十九年勤めた済生会中央病院を定年退職。慶應関連から離れ、大田区大森にある牧田総合病院に入職。脳神経外科を立ち上げた。以来すでに二十四年にもなる。救急・脳卒中などを主に取り組

み、現在は専門医七名、研修医一名の構成になるまでになっている。但し、小生は救急にはほとんど係わらず、外来診療と脳ドックの説明が主となっている。病院名誉顧問の肩書ではあるが常勤医を続けている。例えば、五十四年前の外科入局したフレマンの時、東京オリンピックで神宮の森は歓声がこだましていた。二年後には、再び東京オリンピックが開催される。脳外科医としてもすでに半世紀以上にもなっている。せめて、またの東京オリンピックまでには現役を続けたいと思っている。刀林会の興隆を祈念しております。



追悼

故吉雄敏文先生(37回)を偲んで

医療法人社団 明敬会重城病院外科

寺本 龍生(47回)

東邦大学第1外科名誉教授、吉雄敏文先生(37回)は昨年3月頃より体調不良を訴えられ、東邦大学医療センター大森病院に入退院を繰り返されておられましたが、2017年12月18日、治療の甲斐なく肺炎のため他界されました。享年84歳でした。葬儀は12月18日に築地本願寺にてしめやかに行われました。ここに御報告申し上げます。



写真は1993年10月、インド、パトナで開催されたAFCP(アジア大腸肛門病学会)に吉雄先生と御一緒した時のスナップです。

写真中央の二人の左が吉雄先生で右が私、寺本です。

その際に多大なご指導、ご助力を頂いたことを心から感謝いたしております。医局員によりますと先生は大変温厚なお人柄で、手術は万能、特にケリーとクーパーの取り扱いに長けておられたとのことです。また、先生は大変な健脚で、教授回診では病棟の2階から7階まで医局員の先頭に立って階段を登られたり、休日を利用して奥様とともに東海道五十三次や中山道の旧街道を完全踏破されたことなどを第1外科の同門会で楽し気に話しておられた事を記憶しております。

我が刀林会にとつてもかけがえの無い先生で、先生が日本大腸肛門病学会の理事長を退任された後、先生の薫陶を受けて刀林会員の小平 進(42回)、丸田守人(44回)、(敬称略)寺本龍生が連続して本学会の理事長を務めさせて頂く事ができました。(吉雄敏文先生、本当にありがとうございます。心よりご冥福をお祈りいたします。

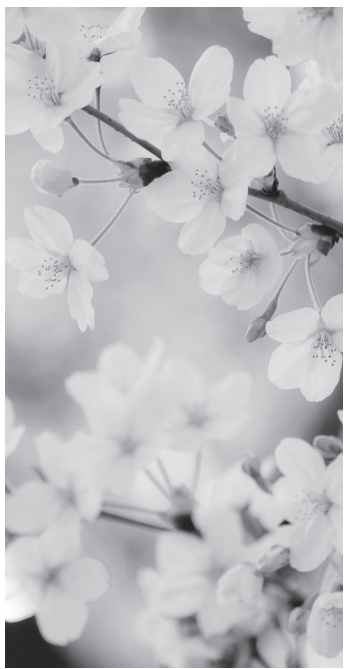
診療体系グループ紹介

上部消化管班紹介



慶應義塾大学医学部 外科(上部消化管班) 川久保 博文(73回)

2007年に北川雄光教授が一般・消化器外科教授に就任し、食道班と胃班は統合され、現在の上部消化管班が発足しました。食道と胃は隣接する臓器であり、近年世界的に増加傾向にある食道胃接合部癌においては、診断や治療戦略に關して食道癌と胃癌の両方の知識や手術の熟練が必要となります。そこで旧食道班と旧胃班の先輩方が築きあげた素晴らしい伝統と臨床・研究の蓄積を統合することによって、頸部・胸部・縦隔から腹部に至る幅広い解剖や生理の知識と外科的技術を持って、上部消化管領域のすべての疾患に對し世界で最高の医療を提供することを目標としております。さらに、領域のみならず、あらゆる進行度の



癌に對して、その進行度に最適な治療を提供しております。内視鏡治療、胸腔鏡手術、腹腔鏡手術、開胸手術、開腹手術、さらに昨年慶應病院に導入されたda Vinci Xiを使用したロボット支援手術など、すべての手術選択肢を病気の進行度、患者様の状態、希望に合わせて高レベルで提供可能な体制をとっております。現在スタッフは北川雄光教授のほか、班長の川久保博文(准教授 73回)、和田則仁(専任講師 74回)、中村理恵子(内視鏡センター 79回)、入野誠之(82回)、真柳修平(85回)、福田和正(癌基盤研究寄附講座特任講師)の7名と成っております。また今年度はチーフからレジデント12名が在籍しており、各自がそれぞれの臨床研究、基礎研究のテーマを持ちながらと職務を遂行しております。

上部消化管班の班員全員が一致団結して、研究・臨床・教育に精進していく所存であります。刀林会諸先生方の変わらぬご指導をよりしくお願いいたします。

Advertisement for Astellas. Text: まだないくすりを創るしごと。明日は変えられる。astellas アステラス製薬 www.astellas.com/jp/

Advertisement for AVASTIN. Text: AVASTIN bevacizumab. 抗悪性腫瘍剤 抗VEGF注1)ヒト化モノクローナル抗体. アバスタチン 点滴静注用 100mg/4mL 400mg/16mL. 中外製薬株式会社

慶應病院 外来 外科担当表

初診外来 (午前)

一般・消化器外科

◎北川雄光
篠田昌宏
和田則仁
尾原秀明
北郷 実
川久保博文

小児外科

◎黒田達夫
◎黒田達夫
藤村 匠
藤村 匠
狩野元宏
狩野直樹
下島直樹
藤野明浩

心臓血管外科

◎伊藤 努
山崎真敬
木村成卓
志水秀行
川合雄二郎
高橋辰郎
稲葉 佑

呼吸器外科

◎大塚 崇
◎浅村尚生
◎政井恭兵
◎渡辺真純
◎加勢田馨
◎菱田智之
◎浅村尚生
◎橋本浩平

脳神経外科

◎大平貴之
◎佐々木光
◎三輪 点
◎高橋里史
◎戸田正博
◎吉田一成
◎秋山武紀
◎三輪 点
◎堀口 崇
◎秋山武紀
◎高橋里史
◎高橋里史

◎印診療部長

◎印診療副部長

特殊外来 (午後)

月 食道・胃 川久保博文
火 肝臓・移植 松原健太郎
水 肝臓・移植 北郷 実
木 腸 尾原秀明
金 乳腺 岡林剛史
土 肝臓・移植 高橋麻衣子
月 肝臓・移植 関 朋子
火 呼吸器 八木 洋
水 呼吸器 渡辺真純
木 血管 尾原秀明
金 乳腺 松原健太郎
土 肝臓・移植 林田 哲
月 肝臓・移植 岡林剛史
火 肝臓・移植 大島 剛
水 肝臓・移植 鶴田雅士
木 肝臓・移植 鶴田雅士
土 食道・胃 川久保博文

特殊外来 (午後)

月 肝臓・移植 北郷 実
火 食道・胃 川久保博文
水 ヘルニア 須田康一
木 ヘルニア 真柳修平
金 呼吸器 和則 崇
土 機能疾患・パーキンソン病 (月一回) 大平貴之
月 肝臓・移植 阿部 雄太
火 食道・胃 大島 剛
水 食道・胃 中村理恵子
木 内視鏡 (第1・3) 古川俊治
火 呼吸器 政井恭兵
水 小児外科長期フォローアップ外来 狩野元宏
木 乳腺 高橋麻衣子
土 呼吸器 関 朋子
月 呼吸器 加勢田馨
火 免疫療法 (第3) 戸田正博

脳腫瘍補助療法 II

佐々木光
星野 健

小児移植 (第2・4) 高橋麻衣子

肝臓・移植 堀周太郎

肝臓・移植 尾原秀明

呼吸器・胸 松原健太郎

脳・定位放射線 (第1) 尾原秀明

小児正人

鶴田雅士

岡林剛史

石田 隆

肝臓・移植 篠田昌宏

機能疾患・パーキンソン病 (月一回) 大平貴之

脳血管障害 堀口 崇

脳神経 (第1・3・5) 秋山武紀

食道・胃 古川俊治

乳腺 川久保博文

血管 林田 哲

尾原秀明

訃報

●吉雄 敏文君 (37回)
平成 29 年 12 月 18 日

●井上 宏司君 (48回)
平成 29 年 12 月 21 日

●長谷川 博君 (33回)
平成 30 年 2 月 19 日

●田中 勝治君 (35回)
平成 30 年 2 月 25 日

●河合 常雄君 (27回)
平成 30 年 3 月 10 日

●露木 晃君 (52回)
平成 30 年 6 月 25 日

●中村 康孝君 (51回)
平成 30 年 6 月 27 日

開業



●岩崎 靖士君 (73回)
みついわクリニク六角橋
平成 29 年 9 月 1 日

●小森 広嗣君 (77回)
小森こどもクリニック
平成 30 年 2 月 5 日

●星野 健君 (63回)
星野医院
平成 30 年 4 月 2 日

●飯田 修士君 (81回相)
足立外科胃腸内科医院
平成 30 年 4 月 2 日

人事異動

(平成 29 年 4 月 2 日から平成 30 年 4 月 1 日まで)

根本 悦夫 (56回相) 国立病院機構神奈川病院 名誉院長就任
上田 敏彦 (57回) 東海大学医学部付属八王子病院 特任教授退任
高橋 孝行 (60回) 足利赤十字病院 副院長就任
饗庭 了 (61回) 慶應義塾大学医学部 准教授退任
川村 雅文 (61回) 帝京大学医学部部長就任
廣部 誠一 (62回) 国立小児総合医療センター 院長就任
橋詰 壽律 (63回) 国立病院機構神奈川病院 院長就任
星野 健 (63回) 慶應義塾大学医学部 准教授退任
小野口勝久 (64回) 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 副院長退任
北川 雄光 (65回) 慶應義塾大学病院 院長就任
松本 秀年 (65回) けいゆう病院 副院長就任
佐藤 道夫 (66回) 国際親善病院副院長就任
長谷川博俊 (66回) 東京歯科大学市川総合病院 准教授就任
瀧本 康史 (66回) 国際医療福祉大学病院 主任教授就任
小柳 和夫 (71回) 東海大学医学部附属病院 准教授就任
松谷 哲行 (71回) 帝京大学医学部附属溝口病院 教授就任
星本 相淳 (74回) 国際医療福祉大学病院 准教授就任
渡邊 稔彦 (75回) 東海大学医学部附属病院 准教授就任
日比 泰造 (77回) 熊本大学大学院生命科学部 教授就任
吉武 明弘 (77回) 埼玉医科大学国際医療センター 准教授就任
大山 隆史 (78回) 国際医療福祉大学市川病院 准教授就任

編集委員

委員長 川村 雅文
副委員長 石井 良幸
顧問 佐藤 周三
顧問 磯部 陽
顧問 小澤 壯治
顧問 古梶 清和
顧問 儀賀 理暁
顧問 斉藤 淳一
顧問 藤野 明浩
顧問 大塚 崇
顧問 下島 直樹
顧問 落合 大樹
顧問 吉武 明弘
顧問 鶴田 雅士
顧問 中村 理恵子
顧問 松本 暁子

編集後記

「Resident」居住者、病院に住み込んで研修する「や」命を救うためなら長時間労働は当たり前」といった古風な考えは、変わりつつあります。医療の質を落とさないような働き方改革の実践が困難であり、乗り越えなくてはならない課題です。ちょうどTVで青いユニフォームを着た代表選手が個性を前面に出すチームを相手に、チームワークで圧倒しています。医師もチームワークを重視した働き方改革で、より効率の良い研修、業務ができるようになればと願っています。

刀林賞募集

刀林賞は、刀林会の以下の優れた業績に対して授与されます。奮ってご応募くださいますようご案内申し上げます。

- 一、臨床的研究
- 二、臨床上、有用な基礎的研究
- 三、医学上の社会活動に関する研究
- 四、本会の発展に著しく貢献したと考えられる業績

刀林会刀林賞

毎年1編以内 副賞：50万円

刀林会奨励賞

毎年2編以内 副賞：10万円

応募資格

- 一、査読システムのある医学雑誌に、当該選考年の11月30日までの直近2年間に、掲載又は掲載確定となった学術論文の筆頭著者
- 二、刀林賞受賞歴のない者
- 三、刀林会会費完納者

応募方法

- 一、毎年7月1日から11月30日までの間に、応募用紙(ダウンロード)を用いて応募する。
- 二、前項記載の応募用紙は、本会ホームページ記載のものをダウンロードして用いる。
- 三、応募者の指導者ないし、指導教授1名の推薦状(書式：応募用紙中)を要する。

受賞者は、6月の総会にて表彰されます。また、刀林新聞に論文の概要が掲載されます。

選考方法などは、刀林賞規則をご参照ください。刀林会HPに掲載されています。

ご質問等ございましたら、外科同窓会までご連絡ください。
(tourin-h@keio.jp) 以上

開業についてのお知らせ

開業の際は、同窓会へご連絡をお願いいたします。記念に刀林会より盾を進呈いたします。よろしくお願ひします。



<刀林会 事務局>
〒160-8582 新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科同窓会事務局

TEL : 03-5363-3800
FAX : 03-3359-9130
tourin-h@keio.jp